

第4学年 国語科学習指導案

平成29年5月24日（水）5校時

4年2組 男子11名 女子9名 計20名

授業者 山岡 真美

- 1 **単元名** 段落のつながりをとらえながら読もう
～ふしぎ発見！助け合う生き物リーフレット交流会～
教材名 「ヤドカリとイソギンチャク」（東京書籍4年上）

2 単元の目標

○生き物の関係に興味を持ち、助け合いの関係を分かりやすく説明することができる。

【関心・意欲・態度】

○紹介したい本を選び、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を読み取ることができる。

【C 読むこと イ】

○目的や必要に応じて、助け合いの関係に注意しながら本を読み、文章の要点をつかみ、リーフレットにまとめることができる。

【C 読むこと エ】

○指示語や接続語を手がかりに文や段落相互の関係をとらえて文章を読むことができる。

【言 イ(ク)】

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第3学年及び第4学年「C 読むこと」の指導事項「目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」と「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を取り上げて指導する。

②付けたい力へ向けての言語活動とその特徴

本単元では、「C 読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を具体化した『段落のつながりを考えながら読み、ふしぎ発見！助け合う生き物リーフレットを作り、交流会をする。』という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる『段落のつながりを考えながら読み、ふしぎ発見！助け合う生き物リーフレットを作り、交流会をする。』は、説明文の内容と段落相互の関係をとらえたうえで、「共生する生き物のそれぞれの利益について、リーフレットに問いと答えの形に表して、3年生に紹介する。」というものである。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて子どもたちの学ぶ意欲が高まるよう、今回は、子どもたちの身近に住んでいる生き物を学習課題に取り上げ、下学年の3年生に紹介するということを設定した。児童は、生き物に興味を持ち、助け合う生き物を発見することに課題意識をもって読み、それを紹介するために必要感を持って意欲的に取り組むと思われる。また、相手意識、目的意識を持たせるために、交流の相手を3年生に設定し、下学年の3年生にも分かる説明ができるよう、複数の資料から生き物の共生に必要な情報を選び、段落相互の関係をとらえ、文章の要点に注意しながら読み、文章を要約して問いと答えの文型で、始め・中・終わりの構成でリーフレットにまとめさせ交流させたい。本教材は、始め・中・終わりの構成が分かりやすく、中の

部分が作者の3つの問いと、それに対する答えによって構成されている。それらをおさえることで、全体の段落相互の結び付きや、ヤドカリとイソギンチャクの関係をとらえやすい教材である。そこで、本単元では、説明文の効果的な説明の仕方や文章構成について学習し、段落相互の関係をとらえて文章を読み取り、問いに対する答えをはっきりさせた上で、友達との交流を通して、簡潔に相手に伝える方法を考え学び合わせることで、日々の生活にも生かすことのできる力を付けていきたい。

(2) 児童観

児童は、3年生4月に『自然のかくし絵』という単元で、段落ごとの内容を正しく読み取り、本文から必要な言葉を抜き出し、隠し絵カードにまとめる力をつけてきた。しかし、授業中の発言の仕方を見ると、話したい事はあるけれど話しているうちに長くなり、伝えたい事が漠然としてくるといふ姿も見られる。自分の考えを明確にし、そのことを中心にして簡潔にまとめる力を身に付けることが必要である。昨年度2月に行った学力調査(CRT)では、「読むこと」の領域において、通過率80.5(全国平均78.3)で、全国値を上回っていた。小領域で見ると、「目的に応じて適切に話すこと」において通過率74.4(全国平均71.8)で、小領域別に見ても全国値を上回っていたが、個人差が見られた。そこで、4年生では、「心の動きを伝えよう」では、始め・中・終わりの形で作文を書かせ、段落を意識して書くことを指導してきている。

(3) 指導観

第一次では、教材文「ヤドカリとイソギンチャク」を読み、これまで学習してきた「自然のかくし絵」などの説明文とちがいを、実験したことが書かれていることと問いと答えの仕組みがあることに気づかせる。その後、教師によるリーフレットを使った交流会のモデルを見せて単元のゴールイメージをつかませ、様々な生き物の関係について興味を持たせる導入とする。更に、3年生に紹介するというので、自分が興味を持った本の生き物を紹介するために、見通しを持ち意欲的に取り組むと思われる。

第二次では、教材文の問いと答えの段落をもとに、ヤドカリとイソギンチャクの関係について読んでいく。そして、教材文を始め、中、終わりの3つの構成に分け、それを問いと答えのまとまりに分けて段落相互の関係についてとらえさせる。次に、問いと答えの段落を基に段落のつながりを考えながら要約していく。その際段落の大事な言葉を意識させ、接続語や文末表現にも注意してまとめさせる。また、問いと答えで表すことは、自分の伝えたい事を読み手に着目させる効果があることにも気づかせたい。リーフレットにまとめる際には、始め・中・終わりの形にまとめさせ、自分の伝えたい事が伝わるような問いになっているか、問いに対する簡潔な答えになっているかの相手意識を持たせ、段落相互の関係を考えながら作成させる。そして、友達と交流する対話的な学びの中で文章の要点をつかみ、問いと答えの形式でより分かりやすくまとめることができているかを考えさせたい。

第三次では、教材文で身に付けた力を生かし、自分の選んだ本で「ふしぎ発見！助け合う生き物リーフレット」にまとめさせ、友達と交流する。その際、それぞれの生き物の利益について、問いと答えが一致するようになっているか、段落相互の関係を考えつながりがあるかを交流のポイントにして、友達との交流で3年生へ紹介するためにより良いリーフレットになるよう対話的な学びを通して、深い学びへつなげていきたい。そして、3年生に丁寧に分かりやすく紹介できるようにさせたい。更に、本単元で付いた力を児童自身に明確に実感できるようにするとともに、今後の読書の幅が広がり、本単元でつけたまとまりを考えて読む力を他教科でも活用させたい。

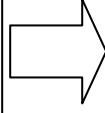
4. 単元構想図

つきたい力に向けた言語活動

段落のつながりを考えながら読み、3年生に紹介したい助け合う生き物のリーフレットを作り、交流会をする。

児童の実態

- 自分の考えを文章で書くことはできるが、段落を意識して書くことには個人差がある。
- 問いに対して筋道を立てて、簡潔に書いて答えることに弱さが見られる。
- 何を聞きとらないといけないか注意して聴くことが弱さが見られる。



本単元で児童につきたい力

- ◎段落相互の関係をとらえて文章を読み取る力
【C (1) イ】
- 目的や必要に応じて文章を要約する力
【A (1) エ】

単元の評価規準

- 《国語への関心・意欲・態度》
- ①生き物の関係に興味を持ち、助け合いの関係を分かりやすく説明しようとしている。
【関心・意欲・態度】
《読む能力》
- ①紹介したい生き物を選び、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を意識して読んでいる。
【C (1) イ】
- ②目的や必要に応じて、助け合いの関係に注意しながら本を読み、文章の要点をつかみ、リーフレットにまとめている。
【C (1) エ】
- 《言語についての知識・理解・技能》
- ① 教材文を読み、指示語や接続が文と文や段落相互の关系到果たす役割を理解している。
【言 イ (ク)】

第一次
1 (導入)

第二次
6 (展開)

第三次
3 (発展)

学習の流れと評価計画(全 10 時間)

主体的な学び

- 学習のねらいをつかみ、見通しを持つ。1【関①】
- ・3年生までの説明文との違い、本教材は実験したことや問いと答えの仕組みがあることに気づかせる。
- ・ふしぎ発見！助け合う生き物リーフレットを作り交流会をするというゴールを確認し、意欲を持つ。

対話的な学び

深い学び

- 教材文の問いと答えの段落をもとにヤドカリとイソギンチャクの関係を読む。6
- ・問いと答えの段落をもとにヤドカリとイソギンチャクの関係をとらえる。【読①】【言①】
- ・段落をもとに文章構成をとらえる。【読①】【言①】
- ・ヤドカリがイソギンチャクを付ける理由を読み取り問いと答えにまとめる。【読①】【読②】【言①】
- ・ヤドカリがイソギンチャクを付ける方法を読み取り問いと答えにまとめる。【読①】【読②】【言①】

本時

- ・イソギンチャクがヤドカリに付く利益を読み取り問いと答えにまとめる。【読①】【読②】【言①】
- ・始めと終わりを要約し、リーフレットにまとめる。【読①】【読②】【言①】

並行読書

対話的な学び

深い学び

- 自分の選んだ生き物の助け合いのリーフレットを作り交流会をする。3
- ・生き物のそれぞれの利益が分かるように問いと答えにまとめる。【読①】【読②】【言①】
- ・始めと終わりを要約し、リーフレットにまとめる。【読①】【読②】【言①】
- ・交流会をし、振り返る。【関①】【読②】

5. 評価規準

B 概ね満足できる状況

- ◆イソギンチャクの利益について、問いと答えの形で段落を意識してだいたいな言葉をぬきだしてまとめている。

イソギンチャクは、ヤドカリの貝がらにつくことで、何か利益があるのでしょうか。

ヤドカリについていれば、いろいろな場所に移動することができるので、えさをとる機会がふえます。また、ヤドカリについていると、ヤドカリの食べ残しをもらうこともできるのです。

A 十分満足できる状況

- ◆イソギンチャクの利益について、問いと答えの形で段落を意識してだいたいな言葉だけをぬきだし、問いに合うように簡潔にまとめている。

イソギンチャクは、ヤドカリの貝がらにつくことで、何か利益があるのでしょうか。

ヤドカリについていれば、えさをとる機会がふえ、ヤドカリの食べ残しをもらうこともできるとい利益があるのです。

6. 本時における研究テーマとのかかわり（身につけさせたい資質・能力）

段落のつながりに注意して文章を読み、問いと答えの関係をとらえ、ヤドカリに付いたイソギンチャクの利益を読み取る力

主体的な学びにつながる「めあて」と「振り返り」の関連

・学習課題を疑問形にすることで、子どもが主体的にどんな利益があるのかを考える。いくつの利益があるのかたずねさせることで、自己決定し主体的に思考させる場面を仕組む。

深い学びへ向かうための発問・指示の工夫

・**指** ペア交流で、イソギンチャクの利益を段落のつながりを考えて問いと答えでまとめて、本当にそれがイソギンチャクの利益になっているか、ペアや交流で考えたことを役立てて書きましよう。

・**指** 振り返りでは、イソギンチャクの利益が分かるように段落のつながり考えて問いと答えでまとめるために、利益に必要な言葉はどれか、友達との対話で、短くはっきり書けていたか、助け合いの関係で思ったことも書きましよう。

軸となる言語活動

○段落相互の関係をとらえ、イソギンチャクの利益が分かるように問いと答えの形でまとめる。

思考・判断

・段落のつながりを考えながら読み、イソギンチャクの利益が分かる語や文を見つけ、問いと答えを考えて要約する。

表現

・イソギンチャクの利益が分かるように、ノートに問いと答えの形でまとめて書く。

・ペア交流で、イソギンチャクの利益が分かるか、問いと答えのつながりがあるか話し合う。

対話的な学びを実現するための工夫や手立て

- ・ヤドカリに付く利益を確かめるために、個人思考からペアに入るときに利益の数を聞いて、立場を明確にさせ、根拠を持たせた上で対話できるようにさせる。
- ・イソギンチャクの利益を、ノートに問いと答えの形でまとめて書き、ペア交流で、イソギンチャクの利益が簡潔に書けているか、問いと答えのつながりがあるか、自分のまとめと比べながら共通点や相違点を出し合い共通点は赤線で囲むようにする。

7. 本時の学習（6/10）

第二次 5時間目

(1) 身につけさせたい資質・能力 「問い」と「答え」の関係をとらえ、ヤドカリに付いたイソギンチャクの利益を読み取ることができる。

(2) 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 支援 (※) 評価 (☆)、主な指示 ^指 、主な発問 ^発
見 通 す	1. 単元のゴールを確認する。 2. 3つ目の問いを確かめ、本時の学習のめあてを確認する。 めあて イソギンチャクには、どんな利益があるのだろうか。	○前回の振り返りを紹介して、本時の授業への意識付けとする。
思 考 し 表 現 す る	3. イソギンチャクの利益を読み取る。 (1) 3つ目の問いが、予習をもとに、これまでの問いと違うところを確かめる。 【全体】 (2) 予習をもとにイソギンチャクがヤドカリに付く利益を考える。 【個人】 → 【ペア】 【全体】 ・いろいろな場所に移動できる。 ・餌をとる機会が増える。 ・食べ残しをもらうこともできる。 3. 問いに対する答えが書かれている⑩段落の要点をとらえ、イソギンチャクの利益を問いと答えの形でまとめる。→ノート 【個人】 (1) ペアで今日の学びをもとに答えを要約して書けているか確かめあう。【ペア】 【全体】	○主語がイソギンチャクに変わっていることに気づかせ、「では」で、話題を変える言葉を書いていることを確かめる。 ^発 「予習で見つけてきた、イソギンチャクがヤドカリに付く利益が分かるところを話し合ひましょう。そして、なぜそこが利益と分かるか説明できるようにしましょう。」 ○ヤドカリに付く利益を確かめるために、利益がいくつあるかを聞いて、立場を明確にさせ、根拠をもとに対話できるようにさせる。 ※ヤドカリに付いていない場合と付いている場合の違いを想起させ、利益に気づかせる。 ^発 「答えの段落の大事な言葉や文に赤線を引き、問いに対する答えをまとめてノートに書きましょう。」 ^指 イソギンチャクの利益を段落のつながりを考えて問いと答えでまとめて、本当にそれがイソギンチャクの利益になっているか、ペアや交流で考えたことを役立てて書きましょう。 ※ヤドカリに付く利益と理由を確かめ、問いに対する大事な言葉を確認してまとめさせる。 ☆問いに対する答えの要点を入れて、ヤドカリに付くイソギンチャクの利益を書いている。 【読①】【読②】【言①】(ノート、発言)
振 り 返 る	5. 今日の振り返りを書く。 ・代表で発表する。【個人】【全体】 家庭学習 教科書全文を音読し、はじめと終わりの段落でだいじだと思ふ言葉や文に線を引いてくる。	^指 イソギンチャクの利益が分かるように段落のつながりを考えて問いと答えでまとめるには、どんな利益が必要か書き、友達との対話で、短くはっきりかけていたか、助け合いの関係で思ったことも書きましょう。 ○次時の予告をする。